

### 今回議論する範囲

#### I 人を育てる

- ・市民の力で人材を活かして知恵を絞り、市役所が困難な所を補っていける仕組みづくり(太田委員)
- ・女性パワー、団塊の世代の男性のパワーを活かした活動(太田委員)
- ・子どもの学力・体力ともに全国平均を下回っており、早急な改善が必要(谷委員)
- ・市内の大学が持つ技術の認知度を上げる方策など、様々な情報発信を進めていかなければならない(吉塚委員)
- ・儲かるビジネスにつながるシニアの人材活用(古城委員)

#### II きずなを結ぶ

- ・産科・婦人科の数の拡充(谷委員)
- ・色々な数字で見ても治安の面は非常によくなっている(中尾委員)
- ・安全・安心のまちづくりについては一定の成果を上げている(宮原委員)
- ・防災対策の強化については、地域における最大の関心事である(宮原委員)

#### III 暮らしを彩る

- ・NPOなどの団体と市役所の連携から融合へ(太田委員)
- ・行財政改革について答申して終わりではなくその後も(答申した者が)責任を持ってチェックする仕組みを(羽田野委員)
- ・地域での福祉問題の解決がコミュニティ活動の大きな課題となっている(宮原委員)

#### IV いきいきと働く

- ・産業観光がこれからの柱。夢が持てる街にしていきたい(羽田野委員)
- ・産・学・官が連携しながらいかに成長戦略を練っていくかが大事(羽田野委員)

#### V 街を支える

- ・古い公共施設をスクラップアンドビルドではなく、既存ストックを活用していく発想が重要(岡田委員)
- ・建築やまちづくり活動についても市民が考え市民が行動し、行政がバックアップする仕組み(岡田委員)
- ・建築や都市計画に経済性・効率性だけでなく、人々の思い入れや拠り所といった別の価値から見る考え(岡田委員)

#### VI 環境を未来に引き継ぐ

- ・大気汚染のデータについてできるだけ早く公開し、市民の不安のないように(谷委員)
- ・越境大気汚染に対する様々な対策が北九州ブランドを守るという意味でも重要(吉塚委員)
- ・地域密着型で利益が出る環境産業を(吉塚委員)

#### VII アジアの中で成長する

- ・環境をいかにビジネスチャンスに結び付けていく(アジアに近い地域的な優位で)かが重要(羽田野委員)

#### その他

- ・地域防犯などの取組みにより確実に治安が良くなってきている。今後も明るいまち北九州をつくりたい(中尾委員)
- ・市の収入が減少していることを市民も意識して、全てを行政に頼るといことから抜け出す必要がある(羽田野委員)
- ・ものづくりの街、工業都市の人の資質を認識したうえで討議すべき(細川委員)
- ・産業の現場の声を直接議論できるように(細川委員)
- ・調査結果の成果と課題など進捗状況のダイジェスト版が必要(古城委員)
- ・市職員の情報共有が低いのが情報発信不足の一因、様々な部署から人を集め情報共有できる仕組みを(古城委員)